

福岡市の保育園待機児 最多

抜本的な新設計画たてよ

倉元たつお市議が市長に迫る



日本共産党の倉元たつお市議は6月16日の市議会
で、過去最多の数になった福岡市の保育園待機児童
の問題をとりあげました。

「つめこみで何が起きているか 現場の実態を生々しく告発

倉元市議が従来の市のやり方は新設をせず、今あ
る園につめこむものだと言及すると、市側は「保育
の質は確保されている」と答弁。

これに対し倉元市議は、「子ども同士のトラブルが

増えた」「一人ひとりの子に目が行き届かない」「本
を読んでいる子の横では走り回る子」「給食も済
まないうちに同じ部屋でお昼寝の準備を始めなけ
ればならない」など現場の実態を告発し、子ども
の発達の保障はできないと批判しました。

市内園の8割が市有地無償 貸与—なぜこの方式やめた

倉元市議は、子どもと保育現場に犠牲を強いる「つめ
こみ」ではなく、保育園の新設を抜本的にふやすよう市
の計画を見直せと市長に迫りました。

新設の最大のネックが用地の確保。市が市有地の無償
貸与を「有償貸与の園と均衡を欠く」と言ってやめたこ
とについて、倉元市議は「市内158園のうち8割の1
24園が無償貸与」「均衡というなら無償貸与こそ」と
指摘し、これまで無償貸与で大幅に建設がすすんだが、
9年前にこの方式を投げ捨てたのは市ではないかと追
及。市はまともに答えることができませんでした。

国の保育制度 改悪に反対 表明せよ

公的責任の縮小、
最低基準の緩和、応
益負担など国が導入
をねらう「新たな保
育制度」に市長は反
対すべき—倉元市
議は6月に市の保育
協会が1100人もの総
決起大会を開いたこ
とも紹介し、こう求め
ました。

市長は「国の動向
に留意しながら慎重
に対応する」と答弁
しました。

日本共産党福岡市議団

福岡市議会ニュース

1園当りの子ども定員比較	
福岡市	138人
他の政令市	平均65人

子どもや女性など多くの人を苦しめる病気感染を防ぐため ワクチンや検査の公費負担にふみきれ

患者・市民の
切実な声に
こたえて

3施策3億円でできる

子宮頸がん

10代女性にワクチンを

子宮頸がんはウイルスの感染が原因です。近年、このウイルスの感染を予防するワクチンが開発されており、10歳代の女性がワクチンを接種することで、感染のほぼ100%を防ぐこと

ができるともいわれています。倉元市議はワクチンへの助成を始めた山梨県のとirikumiを紹介。本市でも公費助成すべきと求めました。市長は「国の対応を見ながら今後検討する」と答えました。

細菌性髄膜炎

ヒブワクチンの定期接種を

細菌性髄膜炎は、全国で年約千人の子どもがかかり、5%が死亡、2割に後遺症が残ります。最初の症状は、風邪の胃腸炎とほぼ同じなので、ペテランの小児科医でも早期発見が難しいときがあります。この病気の予防にきわ

めて有効なのがヒブワクチンです。倉元市議は、札幌市ではすでに実施しているように定期接種化へ市が助成すべきだと市長に求め、米国では発生率が激減したことなどを紹介しました。市長は「国の動向を見守りたい」と消極的でした。

ウイルスが原因、ワクチンで100%防げる

HTLV-1

妊婦への検査に市の助成を

HTLV-1というウイルスは、「成人T細胞白血病」(ATL)や「せき髄疾患」(HAM)の原因ウイルスです。感染者は全国で百万人以上と推測されています。母乳での感染が主な経路なので、妊婦への検査を患者団体も求めています。倉元市議は患者団体から聞き取った切実な声を届け、検査への助成を提案しました。

マスコミでも 倉元質問を報道

倉元市議の質問に市長は「公費負担は県などと協議する」と答弁。西日本新聞などがこれを報じました。



倉元たつお市議が市議会で提案

日本共産党の倉元たつお市議は、6月市議会で、HTLV-1感染予防対策、ヒブワクチンの定期接種、子宮頸がん予防について、患者や市民団体からの聞き取りにもとづいて質問しました。

白血病の一種や、せき随の病気……